長田下地域　振興会だより　第２５号

２０１６年(平成２８年)３月２４日発行

平成27年度「ふれあい発表会」
2／11　下長田集会所にて

老いも若きも…（詩吟と演武）

この日は前日の大雨が嘘のように好天となり、多くの人の参加（７０名弱）を得ました。別室での作品展示の鑑賞、広間での抹茶サービスをいただき、詩吟・カラオケ発表会で盛り上がりました。作品には、住民の皆さんの日々の趣味を楽しむ姿が想い浮かび、発表会ではその趣味に打ち込む熱が直に伝わってきました。

楽しい会食（カレーうまいね）

その後は、輪投げゲームで全員が楽しみ、昼食には、役員の方々の手作りカレーで住民意識を深めました。最後は、おなじみのビンゴゲームでしたが、これまた盛り上がり、皆和気あいあいのうちに、今回もまた元気な笑顔でこの会を終了いたしました。

寒い中でも、多くの人々の集いができたことで、皆様の健康に感謝です。また、役員の皆様２日にわたり、準備・片付けをありがとうございました。　（担当Ｔ.Ｋ）

「人間ホール」を振り返って

似顔絵コーナー（児玉尊子さん）

「人間ホール」は、ひとは福祉会にとって「ひとはまつり」と共に二大行事と呼ばれています。
ひとはまつりは、ひとは作業所で行われますが、人間ホールは、安芸高田市全体を対象にしたイベントとして位置付けられています。そのため、実行委員長は一般市民から選ばれます。とはいうものの、応援団の中心は何といっても自治振興会、明神クラブ、六風会等が中心です。食に関するブースは、ひとはの家族会と共に手慣れた活躍ぶりです。

今回もう一つ彩りを添えたのが、手づくりコーナーに設けられた似顔絵コーナーです。言わずと知れた５区の児玉尊子さんの持ち場、多くの人が、彼女の清涼感あふれる似顔絵に満足満足です。ひとはを利用している方のお母さんからは、礼状が実行委員会の事務局に届けられました。

振興会内には、色々な特技を持った老若男女がいるものです。もっともっと出番をつくり活躍してほしいものですね。　（担当Ｂ.Ｔ）

今年も「向原地域敬老会」盛大に開催!!　10／24

超高齢化に向かうわが町　でも元気です

今年も、向原地域敬老会が、多くの参加者のもと、向原生涯学習センター「みらい」で開かれました。

初めに、実行委員会を代表して、笹岡会長から、「祝意を表す演芸は、身近な、わかた（わが地域）の宝を使ってお祝いしたい」というような、温かい開会の言葉が述べられました。

その後、百歳以上の方の紹介があり、いよいよ向原も超高齢化が近づいているなと思いました。

開会行事が終わると、笹岡会長の言われたとおり、地域の宝である、向原こばと園児による、「こばと太鼓」の演奏があり、かわいい撥さばきに、参加者はみな、盛んに拍手しておられました。続いて、向原高校ダンス部の皆さんが、ハワイアンの調べに乗せて、海の波の上を漂うような美しい身振り手振りでフラダンスを披露してくれました。地元の子どもたちの見事な演技に、参加者は、うっとりと聞き入り、見入っていました。

また、第２部の演芸では、広島ジュニア・マリンバアンサンブルの、躍動感あふれる大人顔負けの演奏ぶりに感動していました。そして、最後は、吉田郡山こども神楽団の「戻り橋」の演目が上演され、参加者の心を強く動かしました。

元気な園児たちの太鼓

地域の孫たちも踊ったフラダンス

半日の日程が、あっという間に終了していました。　（担当Ｆ.Ｔ）

ハロウィン　10／31　～現代版子ども風物詩～

仮装は楽しかったかな？

各地で例年以上の盛り上がりをみせたハロウィンが、この地域でも行われました。

中学１年生の子どもたちの発案で、１０月最終日の３１日（土）、１２人の子どもたちが暗くなってから、何軒かのお宅を訪問しました。

「私の子どもの頃にも“とらへい”という似た行事があったんよ。」と、県北からこの地に嫁がれた方から懐かしいお話も聴かせていただき、秋の楽しみがひとつ増えたように思いました。

ご協力いただいたご家庭の皆さん、どうもありがとうございました。　（担当Ｔ.Ｋ）

（注）「とらへい」…庄原地方に伝わる風習

正月１４日の夜、子ども達が何人かで組になり、籠などの入れ物を農家の軒先に置いて、「トラヘイ、トラヘイ」と言いながら隠れて待ち、餅や菓子、お金などを入れてもらう。

ただし、取りに行くときに水をかけられることもあり、ずぶ濡れにならないように子ども達は一生懸命で、大人たちも楽しんだ。戦国時代の頃から始まったともいわれ、昭和３０年代まで行われていた。「トロヘイ、トノヘイ」という地域もある。

「長田下地域の文化財保護と伝承」について考える⑯

今回は、長田７区上地域に伝わる、「不思議石（不思議墓ともいわれる）」を調べてみることにしました。

今は、ほとんど忘れ去られそうになっていますが、年配の方には、「そういえば、小さい頃に聞いたことがあるよのう」と、思い出されるかもしれません。

不思議な石（墓？）

場所は、松野俊寿さん宅から市道に沿って、１００ｍあまり広島市側に下がった、水路のほとりにあります。下の写真のような石です。見れば、なんの変わりもない石のようですが、田んぼの圃場整備がされたときも、歴史上のいわれ（言い伝え）を考えてか、元のままの位置に据えられているようです。地元に出かけて聞いてみると、「あの石の位置は、昔のままだよ。」と、地域の人は教えてくださいました。

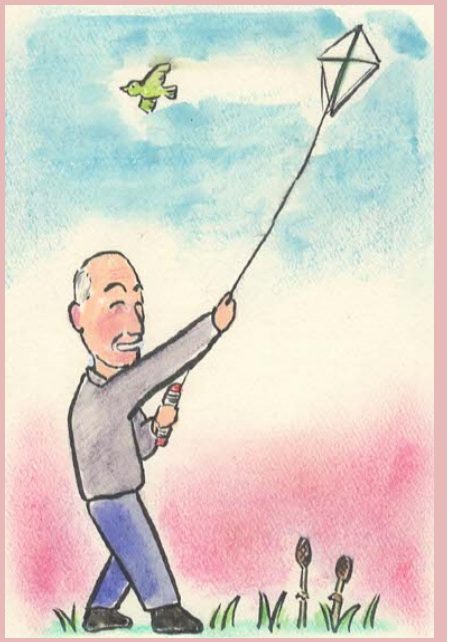
そのいわれとは、わたしたちが幼少のころ聞いた話では、お百姓の娘さんが、親が許さない恋仲の男性と駆け落ちしたが、見つかって、我が家に連れ戻され、蔵の中に軟禁されてしまった。恋しい人に会うこともできず、そのうち、その若者も、別の女性と結婚してしまったので、娘さんは悲しみのあまり、気が狂って自死してしまったそうで、その霊を弔うために、家の近くの田んぼにお墓を立てたというものです。その石を動かした男性は、次々と病気になったり、気が狂ったそうで、その石を元にもどすと、病気は全快したそうです。

（この石にもいわれが…？）

また、向原の歴史研究家の書かれた本を調べると、ほかにも、不思議石（墓）のあることが分かりました。それは、田屋城主の家来が、あらぬ疑いをかけられ、この地で、暗殺されたので、その怨霊が現れて困るので、その霊を鎮めるために、怨霊の墓を建てたものだそうです。その墓は、今も、田屋城のふもとの田んぼの中に残っているそうです。

何の気なしに見過ごしていた道端の石に、こんないわれが隠されていたのです。わたしたちの先祖は、そうした庶民の霊を大切に守って生きてきたのですね。　（担当Ｆ．Ｔ）

長田下地域人物伝⑩



（この絵はT.Kさん作です）

まず掲載している下段の絵をご覧いただきたいと思います。お描きになったのは、６区にお住いの神川一磨さん（７８歳）です。

お若い時は、姫路でお仕事をされていましたが、水道工事をされておられたお兄さんに呼ばれて、広島に戻って来られました。ビルの配管工事や三篠園のボイラーの設置もされています。配管は何十年も残るものなので、最初にしっかりと考えなければならず、逆にそこに自分で考える楽しみがあるそうです。向原に戻られてからも町内の電機屋さんにお勤めされていました。

持って生まれた器用さと発明魂は、趣味でも発揮されています。「遊びの楽校」でも先生として色々教えていただきましたが、凧等の遊具作りの名人でもあります。４、５年前には、テレビの取材も受けられています。

そして、定年後から始められた国宝・重要文化財の模写の絵は、１２０枚を越えています。その中の４０枚を披露していただいたのですが、本物そっくりの絵に一同、驚きと感嘆の声しきり！　美術誌で気に入った絵を拡大して描かれているのですが、全体のバランスに一番苦心するとの事でした。

描き始めたら一心不乱、下描きなら、１日で３～４枚は描き、「落款」もご自身で彫られています。「松の枝１本とっても画家によって違う。そこに魅力を感じる。」と、一番気に入っている雪舟の山の稜線の素晴らしさを熱く語ってくださいました。白い画用紙にアクリル絵の具で何度も塗り重ね、本物そっくりの質感を出されていますが、線描きの時から間違えたことは一度もない、と言われた時には、その集中力に脱帽！　まさに驚きでした。

描いた絵は、差し上げたりすることもあるそうですが、ほとんど自宅に飾って楽しまれています。ぜひ、大勢の方に観ていただきましょう、と盛り上がりました。“振興会だより”で、神川さんの個展を紹介する日も近いのではないかと思います。神川さん、貴重な絵とお話、どうもありがとうございました。　（担当Ｔ．Ｋ）

素晴らしい作品の数々…

発行：　長田下地域自治振興会　　担当：　広報委員会、企画調整部